

「あらしのよるに」を読んで

泉崎第二小学校三年 菊地さん

わたしがこの本を読もうとした理由は、一度えい画の「あらしのよるに」を見てオオカミとヤギのくらい夜のやりとりがとてもおもしろかったので、えい画よりもっとくわしく登場人物たちの心の声や思いが書いてある本を、えい画のことも思い出しながら読んでみたいなと思ったからです。

この本は、七つのお話からできています。どこにでもいる白いヤギのメイとオオカミのガブが、あるあらしの夜にまっくらの小屋の中でおたがいの正体を知らずに会話を始める所からはじまります。

とくに心にのこったことは、四つあります。まず一つ目は、小屋の中での様子でした。強い雨やかみなりがなっている中で、ピカッとかみなりが光ったとき、メイがヤギだと気付いてしまうのではないかと思い、わたしはとてもドキドキしました。晴れた日に、二ひきが会っていたら、メイはオオカミの大こう物のヤギなのできつと食べられたなと思います。

す。二ひきだけがわかる合言葉を決めて次に
会うやくそくをしたところもとてもすてきだ
なと思いました。
二つ目は、はじめて二ひきが顔を見て会う
ところですよ。この前は、あらしの夜ですがた
が見えなかったのでおたがいの正体がわかっ
たときヤギの肉がすきなオオカミのガブがメ
イのことを食べてしまうのではないかとヒヤ
ヒヤしました。でもガブはあの夜るときとか
わらず友だちのまままでメイを食べなくてホッ
としました。その後やくそくのおべんとうを
持っておかの上へ登るとちゅう、ガブは自分
のおべんとうを落としてしまい、前を歩くヤ
ギのメイがおいしそうに見えてきました。本
当はすきなヤギの肉なのに友だちと自分に言
い聞かせてメイを食べずにがまんしたガブは
すごいなと思いました。だけど、おべんとう
を食べられなかったガブはかわいそうだとも
思いました。
三つ目は、ガブがメイをまもる所です。ひ

どいふぶきの中、メイたちをおってオオカミ
のむれが近づいてきました。ガブはメイをま
もるためにウォーっとさけび声をあげて山を
かけおりて行きました。ガブの体がころがり、
大きななだれをおこして、オオカミのむれと
いっしょにガブもいなくなってしまうました。
いのちをかけてメイをまもったガブがいなく
なってしまうたのがかなしいし、死なないで
いてくれたらいいなと思いました。
四つ目は、さい後にいっしょにまん月を見
る所です。その中で「もうヤギでもオオカミ
でもなく、ただ二つの生き物のすがただった
と書かれています。きっと、ヤギだとかオオ
カミだからと見た目や考え方がちがっても、
ちゃんと相手のことを考え、気持ちがあつな
がつていれば、友だちでいられるんだなと感
じました。
わたしもガブみたいにこまっている人を助
けたり、クラスみんなとなかよくしたりで
きたらいいと思います。